

# 社内木鶏感想用紙

2025 年 7 月 30 日

7 月号

名前

タイトル: 希望の一念を燃やして生きる

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

浦田さんと姫野さんの対談を読み二人の芯の強さと自分に

出来ることを一所懸命やることの大切さを学びました。

浦田さんは自分の人生は自分が動かす。

姫野さんは人生の主導権は誰にも譲らない。とありどちらも自分の

人生は自分で決めていくんだと書いてあるように思えました。

それには色々な困難がありそこに直面した時に周りの方からきっかけとなる

言葉を頂き自分の人生を人任せにしないと思われたのだと感じました。

対談の中に後ろ向きな言葉を発し続けると後ろ向きな行動になっていくと

あったので他人のせいにせず前向きな言葉に変えて自分の人生を

より良いものにしていきたいと思いました。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと

# 社内木鶏感想用紙

2025 年 7 月 30 日

7 月号

名前

タイトル:

一念の微

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

一念の微とは、小さな心がけを意識し、毎日続けていくことを意味する。この特集では、安岡正観師による家訓「傳家寶」や森信山師の教え、さらには、「致知」を読み人生を変えた2人の読者の手紙が紹介されておりますが、この特集の中で印象に残った言葉が2つあります。1つ目は、「我が幸福は、祖先の遺恵、子孫の幸福は我が平生の所行にある」という言葉です。今こうして不自由なく生活できていることは、自分の力ではなく、祖先が積み重ねた徳であり、これからの子孫の運命は、今を生きる自分の生き方にかかっているということ。この言葉を通じて目先の利益や自己中心的な考えではなく、過去と未来をつなぐという使命のもと責任ある生き方をしなくてはならないと改めて感じました。2つ目は、「永久の計は一念の微あり」という言葉で、この言葉は、一つひとつの小さな心がけが、やがて大きな人生の方向を定めるという意味ですが、日々の生活の基本を正し、地道に自身のやるべきことを実行し努力を積み重ねていくことが必要だと思えます。今回の致知では、「一念の微」という言葉を学び、生きる姿勢について考える機会をいただきましたが、これからの人生、謙虚と感謝の気持ちを念頭に置き、自身のできることを考え、懸命に実行し徳を積めるような生き方をしていきたいと思えます。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと


# 共栄塾感想用紙

2025 年 7 月 30 日

7 月号

名前

タイトル: 希望の一念を燃やして生きる

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

この二人の対談を見て生きる事の意義を考えさせられました。20歳という若さで徐々に視力を失って行く

恐怖と1年半もの間、家族にも頼らなかった浦田さんの強さは凄いです。目が見えなくなった事で

“音で物を見る能力”が養われました。アイシェードをつけての試合なんて想像を絶しますが見えない事に

甘えずどんな状況下でも自分から動いて行く事の大切さを浦田さんから学びました。姫野さんに関しては、

テニスプレーヤーとは知ってましたが難病の事実は知りませんでした。両親の離婚と強迫性障害を

乗り越え、夢を形にする為に頑張っていた矢先の21歳での難病の告知。人生って皮肉だなと感じました。

ですが、姫野さんの積み重ねて来た日々の練習とテニスへの強い思いが薬剤師さんを含め周りの人を

動かされました。エジプトでの大会では体内時計をエジプト時間に合わせた薬の服用をしてランキングを

獲得、ピンチをチャンスに変えるとはこの事です。このお二人の対談で、素敵な言葉だなと

思ったのは”生命は、自分が使える時間”という言葉です。私は、自分が使える生命の時間を大切に

しているだろうか？とても考えさせられました。限られた生命の時間をこれからは大切にして笑顔と

ありがとうを忘れず自分のいる空間の温度感をあげる努力をして行かなければいけないと思いました。

## ②仲間の発表を聞いて気付いた事

# 社内木鶏感想用紙

2025 年 7 月 30 日

7 月号

名前

タイトル:

特集「一念の微」

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

「永久の計は一念の微にあり」致知の藤尾秀昭さんは「人の心を灯す誌たらん」という一念から雑誌致知を創刊されたそうです。そしてその一念を積み重ねてきたことで、毎日読者から手紙が届くようになったと。そのエピソード2話が書き記してありましたが、まさに「致知と出会ったことで人生が変わった」という実話で胸に響きました。

その「一念の微」は安岡正篤の「傳家寶」から引用していることが書かれてありました。それは これを実践していけば、その家は栄えること間違いなしと思わせる家訓です。

その第七条に「一念の微」のことが出てきます。自分なりに受け止めると、「不摂生な暮らしを送り、朝寝坊ばかりしては何も成しえないし、築けない。一日一日のわずかな積善(一念の微)が人生を形作り、やがて家の繁栄につながる」ということかと思います。「傳家寶」第三条には「良からぬ習慣に押(な)れるべからず。人生は習慣の織物と心得るべし」とありました。良くない習慣を続けてはいけません。

人生は習慣の産物ということでしょう。振り返ってみると、思い当たる節があんなことやこんなことが数々…

「良き1日は善き一念の積み重ねによってのみ訪れるもの」

事前準備を怠らず、不断の努力を重ねていく姿勢を大切に、日々コツコツ励んで行こうと意を新たにしました。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと


12月27日